関西大学東西学術研究所創立五十周年記念論文集　抜刷（二〇〇一年十月）

再論「文化の翻訳」をめぐって

――「聖像画」から見た中国文化への同化の現象――

内田慶市

再論「文化の翻訳」をめぐって

――「聖像画」から見た中国文化への同化の現象――

内田慶市

はじめに

明末に中国にやってきたヨーロッパ人宣教師はキリスト教はもちろんのことであるが、同時に当時のヨーロッパの進んだ科学文明を中国にもたらした。いわゆる「西学東漸」であるが、たとえば、マテオ・リッチ（利瑪竇、一五五二―一六一〇）が当時の皇帝に献上した品物について黄伯祿の『正教奉褒』（光緒十年、上海慈母堂排印）には以下のようにある。

萬曆二十八年。瑪竇偕龐迪我等八人。賫貢物。詣燕京進……
謹以原攜本國土物、所有天主圖像一幅、天主母圖像二幅、天主經一本、珍珠鑲嵌十字架一座、報時自鳴鐘二架、萬國圖誌一冊、西琴一張等物、敬獻御前。此雖不足為珍、然自極西貢至、差覺異耳、且稍寓野人芹曝之私。
（第一冊、四―五）

この他にも王余慶一九八五によれば、地球儀や天球儀、星盤といった天文器機類やガラス製品（プリズムや鏡、瓶など）、銀貨、薬としての犀の角、聖書等々があった。

そして、リッチはこれらの品を皇帝に献上しただけでなく、広く一般の中国人にも見せたり分け与えたりしている。裴化行（Bernard, R.P.Henri）一九三七では次のようにある。

他在南昌也和在肇慶時一様、把西洋的奇珍物品陳列出來、供人參觀。還屢次把這些東西借給幾個重要人物拿回仔細賞鑒、比方那人稱寶石的三稜玻璃、那畫得極精美的聖母抱耶穌油畫像、封面裝釘有花紋邊上鍍金的西洋書籍、這就叫他們知道我們西洋地方也講文理、因為他們心目中以為我們沒有讀他們的書、卻能做一個有學問的人、這是一件極難相信的事。（二〇八頁）

講到聖像、最受人尊重的是救世主像和天主的母親聖母像。他們稱之為聖母娘娘。我們特別需要兩本那笪爾司鐸所印刊的聖像書・・・使我們可以有機會向儒士們説明我們來華立教的緣起。至於平民・・・我們需要幾種普通的小冊子附有許多圖像用以説明聖教與理和天主十誡七罪宗七件聖事等、這是極有用處的、這些圖像不妨粗糙一點、不必精美、用不著藝術的作品、因為中國畫是不分陰陽面的。有一位官員見了一本講述救世主事蹟的小冊子、竟看得出神、我便説這是我們教中的書籍、不便相贈、卻送給他一本伊索寓言。他欣然受下。好像這是弗拉芒印刷術的精品一般。（二〇九頁）

この記載からリッチが中国にもたらしたものの中には「イソップ」までも含まれていたことも興味深いが、今回は特に聖像画に注目してみたい。

一、西洋画の伝来

このリッチがもちこんだ西洋画（宗教画）のリアル性は当時の中国人にとっては極めて新鮮で驚くべきものであった

はずである。たとえば、リッチは神宗皇帝と慈聖皇太后の反応を次のように記述している。

飾り壁を見た国王は驚いて言った。「これは生きている偶像［活仏］だ」。これは、彼らの言い方であって、さしずめこう言ったのであろう、「これは生きている神だ」。彼はそうとは知らずにほんとうのことを言ったのだ。なぜならば、彼が礼拝していたのは死んだ神々だからだ。それはいまもわたしたちの画像の名称［活像］として残っている。そしてそれを贈った神父たちを人びとは「生きている神を贈った人びと」と呼んでいる。しかし国王はこの生きている神をひどくこわがり、聖母の飾り壁はその母親に贈った。偶像を深く信仰していた彼女もそれがあまりにも生き生きとしているのでこわがった。それゆえ、飾り壁は宝物庫［内庫］に納められて、現在もそこにある。多くの官吏はこの宝物庫を管理している宦官の好意を得てそれを見に行く。（マッテーオ・リッチ『中国キリスト教布教史二』一九八二、岩波書店、四七七―四七八頁）

この初めて見た「中国人もびっくり」した西洋画の手法とは、いわゆる遠近法（パースペクティブ）であるが、中国人はこれを「凹凸」という言葉で表現し、中国の画家に影響を与えている。

顧起元（一五六五―一六二八）の『客座贅語』（萬暦四六＝一六一七年の序）には以下のような記述が見られる。

利瑪竇

利瑪竇西洋歐羅巴國人也。面皙、虬鬚、深目而睛黄如貓、通中國語、來南京居正陽門西營中。自言其國以崇奉天主為道、天主者、制匠天地萬物者也。所畫天主、乃一小兒、一婦人抱之、曰天母。畫以銅板為幀、而塗五采於上、其貌如生、身與臂手儼然隠起幀上、臉之凹凸處、正視與生人不殊。人問畫何以致詞、答曰：中國畫但畫陽、不畫陰、故看之人面軀正平、無凹凸相。吾國畫兼陰與寫之、故面有高下、而手臂皆輪圓耳。凡人之面、正迎陽、則皆

明而白、若側立、則向明一邊物白、其不向明一邊者、眼耳鼻口凸處皆有暗相。吾國之寫像者解此法、用之故能使畫像與生人亡異也。（巻六）

凹凸畫

歐羅巴國人利瑪竇者、言畫有凹凸之法、今世無解此者。建康實録言：一乗寺寺門遍畫凹凸花、代稱張僧繇手跡、其花乃天竺遺法、朱及青緑所成、遠望眼暈如凹凸、就視即平、世咸異之、名凹凸寺。乃知古來西域自有此畫法、而僧繇已先得之、故知讀書不可不博也。（巻五）

清代の張庚の「國朝畫徵録」（乾隆四年＝一七三九）でも焦秉貞を評する際に、この『客座贅語』を引いて以下のようにいう。

焦秉貞、濟寧人、欽天監五官正。工人物、其位置之自近而遠、由大及小、不爽毫毛、蓋西洋法也。明時有利瑪竇者、西洋歐羅巴國人。通中國語、來南都、居正陽門西營中、畫其教主、作婦人抱一小兒、為天主像、神氣圓滿、采色鮮麗可愛。嘗曰：中國秖能畫陽面、故無凹凸：吾國兼畫陰陽、故四面皆圓滿也。凡人正面則明、而側處即暗、染其暗處稍黒、斯正面明者、顯而凸矣。焦氏得其意而變通之、然非雅賞也、好古者所不取。（巻中）

林金水一九九六（二五六―二六一頁）によれば、このほか、姜紹書の『無聲詩史』、鄒一桂の『小山畫譜』、袁棟の『書隠叢説』などでもリッチのもたらした凹凸の技法に言及している。

このような西洋画の技法をまず実践したのは、宮廷画家であったが、たとえば、神宗帝はリッチやパントーハの肖像

画を描かせている。耶蘇会士の遊文輝（一五七五―一六三〇）のリッチ像は中国人によってそのような手法で書かれた最初のもの（一六一〇）と考えられている。

また、リッチは萬暦三三年（一六〇五）に程大約（一五四九―一六一六？）に四枚の銅板宗教画（Wienix による）を贈っているが、それを中国人（丁雲峰作画、黄鏻翻刻）の手によって翻刻されたものが『程氏墨苑』（一六〇四）に収められている。なお、リッチの贈った図にはラテン文字による音注が附されており（いわゆる『西字奇跡』＝一六〇五年北京刊。なおそれ以前にもルッジェーリとの共編になる『葡漢辞書』『賓主問答私擬』にもローマ字音注はあるが、いずれも稿本であり、刊本としてはこれが最初である）、聖母像は長崎のセミナリオでジョバン・ニコラ（Jean Nicolao）によって彫られたものである。

二、『天主降生出像經解』

さて、ここに一冊の面白い本がある。ハーバード大学のホートンライブラリーで偶然目にしたものであるが、中身はキリストの一生を絵と文で描いたものである。特にその絵が興味深く、一種の「漫画」「連環画」とでも言ってよいものである。原画（原書）を模刻したものであろうが、どこか中国的なのである。それは上に触れた程氏墨苑の絵とも共通するものであるように思われる。

二・一　本書の体裁

表紙には『天主降生言行紀像』とあるが、序には『天主降生出像經解』とある。

引（艾儒略の序）三葉、本文二十六葉、全二十九葉、五十一話（図）

刊行年の記載はなし。

ただしハーバード蔵本のメモには以下のようにあり、一六四〇年頃の出版と思われる。

This "Life of Christ" was produced by the Chinese-European printing press of the Jesuit Fathers in China about 1640, and illustrated by a Christian artist in the Chinese style.

Highly interesting block-book produced by Chinese Christians under the direction of Jesuit Fathers between the years 1635-1640. NO OTHER COPY IS RECORDED. Henri Cordier in "L'Imprimerie Sino-Européenne au XVIIe et au XVIIIe siècle", Paris1901, p.1-2, No.3, describes another similar block-book of which also only one copy is recorded. It seems to be engraved by the same artist and apparently was written by the same authors as ours, i.e. Giulio Alenio(1582-1649), an Italian Jesuit and missionary who came to China in 1613 and died there in Fou-Achéon in 1649. He wrote about 25 works in Chinese and was called by the Chinese the "Confucius of Europe".

ここでの「一冊しかない」というのは、コマーシャルベースの話で、実はパリ国立図書館（B.N.）には七種の版本が残っている。そのうちの、請求番号 Chinois 6756 は『天主降生言行紀像』とあり、二十六葉、五十一図とあって恐らくハーバードのものと同じである。ただ現物は Chinois 6750 の『天主降生出像經解』（一六三七）と序文のない Chinois 6751 しか見ていないので今は確定的なことは言えない。

なお、B.N. の 6750 は Cordier 1901 に以下のように艾儒略の著作として挿し絵入りで収められている。

1、Aleni (Giulio)、艾儒略

3—3、出像經解

Tch'ou siang king kiai, 1637, 1 k. – Vie illustrée de Notre-Sei-gneur.

Les planches, gravées en Chine, de ce livre sont tirées de l'ouvrage sur les Évangiles du P. Jérome Nadal, S.J. (né à Majourque en 1507; + à Rome le 3 avril 1580); elles sont gravées en Chine d'après les planches de Wierx (Jean,

Antoine et Jérôme).

その該当個所の絵はハーバード蔵本の二十四番にあたるが、内容も若干異なり、参照指示も Cordier では「見行紀二卷十六」とあり、ハーバード本では「見行紀二卷十九」とある。また、この B.N.6750 は本文二十八葉、五十六図であり、序文の最後には IHS の印が押され、刊行年（天主降生後一千六百三十七年、大明崇禎丁丑歳二月既望）と刊行場所（晉江景教堂繡梓）も示されているが、ハーバード本にはそれがない。つまり、両者は別の版本ということになる。

この書の成立について、序では以下のように述べている。

天主降生出像解引

粤昔　上主嘗預示降生救世之旨於古先知之聖、故從古帝王大聖獲聆真傳者咸企望欲見而多未獲滿意也、逮其果降生于大秦顯無數靈蹟、代人贖罪死復活而升天、普天下諸國得聞聖教好音、亦無不願生同時以親睹聖容光輝也、于是圖畫聖像與其靈蹟、時常寓目以稍慰其極懷焉、吾西土有　天主降生巔末四部、當代四聖所記録者、復有銅板細鏤吾　主降生聖蹟之圖數百余幅、余不敏嘗敬譯降生事理於言行紀中、茲復倣西刻經像、圖繪其要端、欲人覽之如親炙吾主見其所言所行之無二也、中有繪出於言行紀所未載者、蓋更詳聖傳中別記悉繪之以見其全也、至於形容無形之物、俾如目睹、則繪法所窮、是以或擬其德而摹之、或取其靈所顯示者而像之、如　天主罷德肋與肋斯彼利多三多本為純神超出萬相、然繪罷德肋借高年尊長之形者摹其無始無終至尊無對之德也、繪斯彼利多三多取鴿形者、蓋吾　主耶穌受洗於若翰時　天主聖神借鴿形顯示其頂故也、若天神亦為無形之靈、第其德不衰不老、則以少年容貌擬之、神速如飛、則以肩生兩翅擬之、清潔無染、則以手持花枝擬之、凡如此類義各有歸總、非虛加粉飾以為觀美而已、顧　天主無窮聖蹟、豈筆墨所能繪其萬一、而茲數端又不過依中匠刻法所及翻刻西經中十分之一也、學

者繇形下之跡以探乎形上之神、繇目睹所已及併會乎目睹所未及、默默存想、當有不待披卷而恆與造物遊者、神而明之、是則存乎人已

遠西耶穌會士艾儒略敬識

同會　瞿西滿　陽瑪諾　聶伯多　同訂

つまり、キリストと共に生き、その聖なる姿、光輝を我が目でみるために、その聖像と奇跡を図像で描いたこと。西洋にはそのようなキリストの一生を記した書物や銅板画が数百枚あること。艾儒略はかつてそれらを「言行紀」（つまり『天主降生言行紀略』一六三五―一六三七？）として訳したこと。今回さらにまた、その西洋の絵入りのものに倣って、中国人に中国の手法によってその要点を翻刻させたこと。無形な物を如何に表すかということ。たとえば、聖父、聖神、天使の表し方。これは原書の本の十分の一であること。学ぶ者は、形而下のものを通して、形而上の神を探るべきであること等々が述べられている。

ところで、ここで言う「キリストの一生」を描いた図入りの本、つまり本書が元にした原書であるが、先の裴化行一九三七に「那笪爾」として登場し、Cordier の記述にも見えるナダル（Jerome Nadal）の『聖教詮釋』（Adnotationes et meditationes in Evangelia）である。

たとえば、沈福偉一九八七で次のように言う。

一五九八年、龍華民（ロンゴバルト）はかつてヨーロッパに画冊を送るように要求した。なぜなら西洋画には陰陽明暗があって中国人にすこぶる喜ばれたからである。その年に中国にやってきたポルトガルのイエズス会氏羅

如望（Joannes de Rocha 1566-1623）はリッチが北京に赴いた後、南京に到着した。一六〇九年彼は『天主聖像略説』を著すが、その中の図像は一五九五年ベルギーで出版されたナダル（P.Nadal）の『聖教詮釋』（Adnotationes et meditationes in Evangelia）の中の彫刻画を翻刻したものであり、これらの図画もまたWierixの手にかかるものであった。（四三二頁）

『程氏墨苑』との類似性も同じ彫刻者ということであれば肯ける。

ただし、沈は更に次のようにも述べている。

リッチがキリスト教画を献上した後、一六四〇年十一月には湯若望がさらに思宗皇帝に天主図像を進上した。Bavaria（バイエルン）の君主マクシミリアヌス（Maximilianus）はかつて羊皮で彩色の天主降生事跡図を装幀し、また蝋で作った三王来朝天主の彩色聖像一座を北京に送り、湯若望に託して思宗皇帝に献上した。その本は全部で六十四枚、図は四十八幅である。原本はすでに見ることは出来ないが、艾儒略の著作に「玫瑰十五端圖像」と「出像經解」があり、後者は一六三七年に刊行され、又の名を「天主降生言行紀略」といい、その図は五十七幅で、費賴之によれば、これは楊光先が引いた湯若望が進呈した図像であるという。楊光先は「不得已」の中で湯若望が進呈した図像に倣った説があり、かつてその原図の第二十八、四十二、四十三の三図を模写している。ただし、人物の面容、長矛、単刀はみなすでに中国化している。（四三一―四三三頁）

すなわち、艾儒略が元にしたのはマクシミリアヌスが湯若望に託した天主降生図だというのであるが、これは年代的に些か無理があるように思われる。もちろん、湯若望が託されたものと艾儒略が参照したものが同じものであったこと

は十分に考えられるし、また、楊光先は確かに湯若望を引いてその説を駁してはいるが、むしろその絵は徐宗澤や費頼之のいうように、艾儒略の本を引いたと考える方が自然のように思われる。

出像經解一巻（一六三五年印行・本刻圖像五十六、楊光先攻擊聖教、即據是書、謂、教友所崇拜者、乃圖恢復如德亞國被釘耶穌云）（徐宗澤一九四〇、三六五頁）

出像經解一巻、一六三五年本、即前書初刻本的附圖也。一六六三年楊光先即據此圖厚誣耶穌為罪人。（費頼之『入華耶穌會士列傳』一五七頁）

なお、この両者とも刊行年が一六三五年になっているのは俄には肯定し難いところであるが、今後の調査に待つことにする。

三、『誦念珠規程』（一六一九？）および『進呈書像』（一六四〇）

『天主降生出像經解』の原書である、Jerome Nadal (1507-1580) の『Adnotationes et Meditationes in Evangelia』はキリストの福音伝道を一五三枚の木版イラスト入りで分かり易く説明したものであるが、初版が一五九三年に、その増補版が一五九四年に、第二版が一五九五年に、それぞれベルギーのアントワープで出版された。

実は、このNadalの福音書の中国への伝来について言えば、上述の艾儒略のもの以外に二種類確認できる。

一つは、Rocha (P.Giovanni da Rocha、羅如望、1566-1623) の『誦念珠規程』（一六一九？）であり、もう一つはAdam Schall（湯若望）の『進呈書像』（一六四〇）である。

三―一『誦念珠規程』

筆者は現在までにRochaの『誦念珠規程』は未見であるが、費方規（Gaspard Ferreira, 1571-1649, 字揆一、ポルトガル人）の『念珠規定』（バチカン図書館蔵）なる本を見ている。それには「後學李祖白」による以下のような序文が付けられている。

念珠規程小引

此揆一費先生所撰誦念珠規程。内列默想事理。即　聖母玫瑰十五段經是也。　聖母經曷稱玫瑰。玫瑰萬花之美。以況　聖母之德馨。庶幾似之。玫瑰有葉有刺有花。　聖母有歡喜有痛苦有榮福。首五歡喜。應葉。中五痛苦。應刺。後五榮福。應花。故稱玫瑰十五段也。十五段最宜我等默想者何。我等倚　聖母為母。宜得其心。不得其心。而欲望其代求于　主甚難。以故凡誦　聖母念珠。必遵此規模程。誦亞物及在天共十有一遍。當即默想玫瑰經事理一段。默想歡喜。必生慰藉之情。默想痛苦。必生感傷之情。默想榮福。必生慶樂之情。是誦經者。化己之情。而為　聖母之情。　聖母之情。既在于我。豈有不得其心。不遂其求者乎。此費先生所繇譯著是書以詔來學也。四方遵行。蓋已有年。戊寅冬月。道末湯先生重梓於京。命白引其端。白不敢辭。即以素所聞于諸西師者。聊述數語于此。或亦同志者所弗鄙棄也。

後學李祖白謹識

「李祖白」なる中国人信徒については未詳であるが、この序文から、本書がまた『玫瑰經十五端（段）』あるいは『聖母玫瑰經十五端（段）』とも呼ばれること、「聖母經」が何故「玫瑰經」と呼ばれるか、翻訳者が「費奇規」であること、「戊寅」の年、つまり崇禎十年（一六三八）に湯若望の手によって北京で重版されたものであることなどがわかる。

また、「遠西耶穌會士　費奇規述、同會　傅泛際　畢方濟　費樂德訂、値會　陽瑪諾准」とある。

体裁は「小引」が二葉、本文が三十二葉からなり、内容は「總説」に続き、「誦念珠首一分的規程」、「誦念珠中一分的規程」、「誦念珠後一分規程」に分かれている。それぞれの規程がさらに「歓喜一」から「歓喜五」、「痛苦一」から「痛苦五」、「榮福一」から「榮福五」で示されており、それぞれに一枚、合計十五枚の「図像」が描かれている。

ところで、『誦念珠規程』という書名は、Bernard 1945 に見えている。その一六一九、萬歴四六—四七の所に以下のようにある。

122. Da Rocha, Song nien-tchou koei-tch'eng 誦念珠規程 Méthode pour réctier le Rosaire, avec quinze illustrations. (335p)

ただ、『念珠規程』という書名としては、たとえば Cordier 1901 や徐宗澤一九四〇あるいは費賴之一九九五（原本は一九三二—一九三四）では龍華民（Nicoras Longobardi, 1559-1654）のものが挙げられているだけであるが、『玫瑰經十五端』という書名ではいずれも費奇規の著作として収められている。ただし、いずれにも Rocha の著作としては挙げられてはいない。

116-3. 玫瑰經十五端 Mei kouei king che ou touan. - Les 15 mysteres du Rosaire. (Cordier, 24p)

前述の Bernard でも『玫瑰經十五端』は二本収められているが、いずれも費奇規の著作となっている。

一六三二、崇禎四

209. Ferreia, Mei-koei king che-ou toan 玫瑰經十五端 Méditations sur les quinze mystères du Rosaire. (347p)

一六三八、崇禎一〇

288. Ferreia Mei-koei king che-ou toan 玫瑰經十五端 Méditations sur les quinze mystères du Rosaire. Pékin par les soins de Schall en hiver. (353p)

筆者が現物を見ている李祖白の序文のついた『念珠規程（玫瑰經十五端）』はまさに、この一六三八年版であろうが、どうも『誦念珠規程』と『玫瑰經十五端』さらには龍華民の『念珠規程』との関係がはっきりしない。

なお、『玫瑰經十五端』はまた先に沈一九八七でも触れられているように、艾儒略の著作として Cordier などには次のようにある。

十五端圖像（Cordier 1901, 3p）

玫瑰十五端圖像（費賴之一九九五、一四〇頁）

玫瑰經十五端圖像（徐宗澤一九四〇、三六六頁）

また、高田一九九五では次のようにもあるから厄介である。

天主聖教啓蒙（Clef pour ouvrir la loi de Dieu). Cordier, No.245. Premier chapitre seul du P.da Rocha; 2e chapitre du P.Ferreira, mais les deux chapitre sont fondus en un seul dans la presente edition et occupent 69 ff. A la suite,

le Nianzhu guicheng 念珠規定 (Sur le Rosaire), 31 ff., illustre. (28p)

つまり、「Cordier の二四五番の『天主聖教啓蒙』は第一部は P.da Rocha により、第二部は P.Ferreir によるが、これらふたつをこの版ではひとつのものにまとめられていて、六十九ページを占める。続けて『念珠規程』が三十一ページを占め、挿絵入り」と言うのである。

『誦念珠規程』に描かれている挿絵は P.Pasquale M.D'elia S.I. の『Le Origini Dell'arte Cristiana Cinese 1583-1640』(Roma, 1939) に Nadal の原画と対照させたものが十五枚収められており、それで輪廓をとらえることができるのではあるが、それは費奇規の『念珠規程（玫瑰經十五端）』と全く同じものである。

してみると、『誦念珠規程』は Rocha と Ferreia の共著であり、それは Rocha の『天主聖教啓蒙』と Ferreia の『念珠規程＝玫瑰經十五端』から構成されたものというのが妥当なところのようであるが、一方で艾儒略の『十五端圖像』との関係が不明であり、今後の調査をまつこととする。

三―二『進呈書像』

筆者が見たのはパリ国立図書館蔵本であるが、訳者である湯若望 (Jean Adam Schall Von Bell, 1591-1666) による崇禎十三年（一六四〇）の序文（三葉）が付せられており、末葉に「耶穌會中同學　金彌格、龍華民、萬審克　同訂、値會　傅汎際　准」とある。本文は全部で五十葉、図は四十七幅収められている。

つまり本書は、先に引いた沈一九八七の以下の記述にあるマクシミリアヌスが湯若望に託して皇帝に献上した「天主降生事跡図」を湯若望が中国語で説明したものであることがわかる。

一六四〇年十一月には湯若望がさらに思宗皇帝に天主図像を進上した。Bavaria（バイエルン）の君主マクシミリアヌス（Maximilianus）はかつて羊皮で彩色の天主降生事跡図を装幀し、また蝋で作った三王來朝天主の彩色聖像一座を北京に送り、湯若望に託して思宗皇帝に献上した。その本は全部で六十四枚、図は四十八幅である。（四三二頁）

これについてはまた『正教奉褒』に次のようにある。

崇禎十三年十一月。先是有葩槐國君瑪西理。飭工用西緞羊鞹。裝成用爺一帙。綵繪天主降凡一生事蹟各圖。又用蠟質。裝成三王來朝天主聖像一座。外施綵色。俱郵寄中華。託湯若望轉贈明帝。若望將圖中聖蹟。釋以華文。工楷繕就。至是若望恭賫趨朝進呈。并具疏奏稱。（十八裏）

四、中国式の聖像画

さて、これらの書に見られる「絵」についてである。

年代順としては、Rocha（羅如望）＝Ferreira（費方規）—Alleni（艾儒略）—Schall（湯若望）となるが、最も原画を忠実に翻刻しようとしたのがAlleniのもの（図2）である。が、それでも、明らかに原画（図1）とは異なったイメージがそこにはある。何よりもそこには「陰」がない。「陰」はあっても、よく見ると「けったい」である。雲が特徴的である。

Rocha＝Ferreira（図3）やSchall（図4）のものになると、それは一層「中国式」に変化している。たとえば、原画ではバイブルのおかれる「書見台」が、Rocha＝Ferreira（図3）では「茶机」となっている。窗は「格子窗」である。「らんま」がはめ込まれていたり、樹木も中国のそれである。まさに、中国伝統の「繡像」に見えるものと同じイ

図 3

図 1

図 4

図 2

メージがそこには存在している。十七世紀のこの絵と清末のものとを比べてみても大差はない。つまり、これは西洋画ではなくて、中国に同化したそれなのである。

「キリストの一生」という極めて崇高なもの、聖なるものまでも、中国化することに彼らはやぶさかではなかったということである。中国人に受け入れられさえすれば、中国人が好むものでありさえすれば、彼らは布教のためには譲歩したということである。

筆者はかつて、中国語訳イソップに見える「文化の翻訳」の方法について述べたことがある。特に、ロバート・トームの『意拾喩言』についてであるが、そこで彼は、イソップに登場するギリシャの神や英雄を中国風に変えてしまった。ダイアナは「嫦娥」であり、ヘラクレスは「阿彌陀佛」のように。時間も同じく、「禹」の時代であったり、虞舜や神農の時代であったり、場所も峨眉山や羅浮山であったりのようにである。このような、言語における中国への同化と同様のなことが、絵画や彫刻においても確かに存在したのである。リッチ以降の来華宣教師の「文化の翻訳」とはまさにこのような形で行われたのである。

〈付記〉
本稿執筆に際しては、ローマ大学の Federico Masini 氏より、バチカン図書館蔵「念珠規程」や P.Pasquale M.D'elia S.I. の書のコピーの提供を受けた。また、Nadal の影印本は、アメリカ Fairfield 大学の MacDonnel 氏のご好意によって入手できた。さらには、関係文献のフランス語、イタリア語については関西大学文学部の柏木治氏のご教示を受けた。記して感謝の意を表する次第である。

〔主要参考文献〕
Henri Cordier 『L'IMPRIMERIE SINO-EUROPÉENNE EN CHINE. BIBLIOGRAPHIE DES OUVRAGES PUBLIÉS EN CHINE PAR LES EUROPÉENS AU XVIIe ET AU XVIIIe SIÈCLE (17e-18e の中国における西書漢訳目録)』 Paris Imprimerie Nationale, 1901
P.Pasquale M.D'elia S.I. 『Le Origini Dell'arte Cristiana Cinese 1583-1640』 Roma, 1939
裴化行 (Bernard,R.P.Henri) 『我瑪竇司鐸和當代中國社會』 商務印書館、一九三七
徐宗澤編著 『明清間耶蘇會士譯著提要』 中華書局、一九四〇
P.Pasquale M.D'elia S.I. 『Le Origini Dell'arte Cristiana Cinese 1583-1640』 Roma, 1939

沈福偉「中西文化交流史」上海人民出版社、一九八七
費賴之著、馮承鈞譯「在華耶穌會士列傳及書目」中華書局、一九九五
(Le P. Louis Pfister,S.J. 「Notices biographiques et bibliographiques sur les Jésuites de L'ancienne Mission de Chine 1552-1773」 Changhai Imprimerie de la Mission Catholique, 1932, 1934 の中国語訳)
Paul Pelliot 著、高田時雄補編「Inventaire sommaire des manuscrits imprimés chinois de la Bibliothèque Vaticane」 Instituto Italiano di Cultura Scuola di Studi sull'Asia Orientale, Kyoto, 1995
林金水「利瑪竇與中國」中國社會科學出版社、一九九六
Joseph F. Macdonnel,S.J. 「Gospel Illustrations: A reproduction of the 153 Imeges taken from Jerome Nadal's 1595 book ADNOTATIONES ET MEDEITATIONES IN EVANGELIA」 The Fairfield Jesuit Community, U.S.A., 1998
Henri Bernard, S.J. 「Les adaptations Chinoise d'ouvrages Europeens 1541-1688」「華裔學志（Monvmenta Serica)」Vol.X, 1945（なお、本論文は「歐洲著作之漢文譯本」」として馮承鈞による中国語訳が「西域南海史地考證譯叢六種」中華書局、一九五六に収められている）
王余慶「利瑪竇攜物考」「中外關係史論叢」北京、一九八五